

## 会 議 録

会議名	平成24年度 第2回定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	平成24年9月14日(金) 午前10:00~12:10
開催場所	丸亀市役所別館5階第1会議室
出席者	(出席委員) 板倉 宏昭(会長)、瀧原 祥夫、高橋 勝子、草薙 めぐみ、森 茂(副会長)、 高木 和代、角野 幸治、都村 忠弘、神原 正、平田 正数、谷 委紀 (欠席委員) 野村 明宏、鈴木 貴信、宮武 浩一
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圏域の将来像について</li> <li>・ 具体的取組の内容について</li> </ul>
傍聴者	0人
事務局	丸亀市企画財政部政策課
発言者	議事の概要及び発言の要旨
	<p>次の2つの議題について協議し、結果は以下のとおりとなった。</p> <p><b>(1) 圏域の将来像について</b></p> <p>圏域の将来像の素案及びその構成(「圏域の現状と課題」「目指すべき将来像及びその実現のための3つの基本方針」)について事務局より説明。</p> <p>高橋委員 基本方針で、「 」の部分が課題としてあげられていますが、これらが具体的にどのような取組に繋がっているのか、わかりづらいです。</p> <p>事務局 これは、次の議題の中で説明させていただきます。ちなみに「 」は現状分析・求められている点といった意味合いの項目であり、「 」はそれを受けてこういう圏域をつくるという項目として表しています。</p> <p>瀧原委員 人口推計のグラフは、特にこの地域で過疎化が進んでいるということではなく、日本全体の人口減少を踏まえ、圏域の将来像を構築していくうえで、それなりの対策が必要であるということを示されているのでしょうか。</p> <p>事務局 このグラフは国勢調査と国立社会保障人口問題研究所のデータをもとに作成したのですが、圏域においても、地方から都会への人口流出など、人口減少の傾向があり、全国的な状況と同様であるという内容を表す資料となっています。定住自立圏構想は、地方部で連携することによってその流れを抑制しようとするものです。</p> <p>板倉会長 1947年から49年生まれのいわゆる団塊世代の方が全国で800万人程度おり、これから3年間でそれらの方が高齢者という分類に入ってくことで、高齢化率</p>

	<p>は急速に高まってきますので、こういった人口減少・高齢化率の上昇と言うことを前提として、ビジョンをつくっていく必要があります。</p>
高橋委員	<p>圏域の現状と課題の「地域資源の活用と地域経済の活性化」のところで、地産地消の意識を持って進めるような言葉があっても良いと思います。</p>
板倉会長	<p>地元のを誇りに思うということは大切です。例えば、小学校の給食で地元のものを出し、それを理解していくことで、将来、大人になって地元のセールスマンになるといったことにも繋がってくると思います。</p>
神原委員	<p>地域の中で働き、稼ぎ、それを消費して生活するという中讃地域の中での循環ができれば一番良いと思います。その意味で、働く場所をもっと活性化するなど、圏域内の循環を作ることをビジョンにもっと打ち出していても良いと思います。</p>
都村委員	<p>ここで新しい取組を提案して実施することとなった場合には、協定の変更について議会で議決するということですが、2市3町それぞれの議会でのことですか。 また、その議会の前には市長・町長は寄って話しをするのですか。</p>
事務局	<p>議会は2市3町個々の議会を指しますが、当然、議会に諮る前には、市長・町長で構成される定住自立圏形成推進委員会での協議はいたします。</p>
都村委員	<p>市長・町長が5人おられますから、そういった方が寄って話をしていけないと、進んでいけないのではと懸念しています。また、この定住自立圏構想は2市3町の連携であり、最終的に合併に行き着くのではないかと考えていますが、そういう話は市長さん達の中で出ていないのですか。</p>
企画財政部長	<p>このことにつきましては、市長・町長による推進委員会の第1回会議の冒頭に、会の会長を務めます丸亀市長より、「この取組は合併に繋がるものではない。」と各市町長にご説明しております。合併という話であれば、定住自立圏構想に関わるこういった会とは違った場で議論しなければならないと考えております。</p>
平田委員	<p>65歳以上の方が増えて、企業では、技術を持つ団塊世代の方が一斉に退職されると困ることから、定年を延ばして雇用する動きも出てきている状況です。ビジョンでも、そういった世代のパワーを、生産性向上の資源として考えてはどうでしょうか。</p>
角野委員	<p>各市町に商工観光関係の課がありますが、情報発信する場合や、どこかに出かけて行って特産品のPRをする場合は、自分のまちのPRしかできません。 そこで、各市町の商工観光担当課から各1名を出して、この地域で5人の担当者が各「まち」ではなく、この「エリア」を宣伝し、詳しい話になれば、そのまちの担当者が説明するというにすれば、効率も良いし経費も削減できると思います。</p>

	<p>産業の面では、いかに良い人材をこのエリアから発掘するか、このエリアに来ていただけるかが大切です。外部から来ていただけたら人口増にも繋がりますし、各市町が連携して、企業で共同求人をやれば非常に効率的ですし、このエリアに人を呼べるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>各市町がこれまでにそれぞれ情報発信していたものについて、圏域で情報を共有して、全体で情報発信していくことは、重要な取組として位置づけております。雇用につきましては、今回の取組の中には明確に規定されてはおりませんので、そういった取組に関するご意見は積極的にいただきたいと思います。</p>
森副会長	<p>人口減少の資料は、できれば全国に比べてどうかというところも欲しかったです。あと、圏域の資源の中には「産業」に関するものがほとんど触れられていません。中小企業の活性化、福利厚生の上昇という取組はありますが、雇用の面から、この地域の中で新卒を雇用すれば補助金を出すなどの形で外に行く者を減らすというように、全体的に産業を支えていくといった言葉が見当たりません。そういった産業も資源として確認してやっていくことが大切であると思います。</p>
草薙委員	<p>どこかの研究所の調査で、1,000年後には日本に子どもがいなくなるというデータがあると聞きました。そういうことも含めて人口減少の進行を予測して考えていかなければなりませんし、高齢者を支えていくのはこれからの子どもたちです。経済が良くなっても、子どもを産み育てる環境をきちんと整備していかないと、子どもを産みたくても断念せざるを得ないという状況にありますので、そういったところをきっちりやっていく必要があります。</p> <p>現在、病児・病後児保育を実施しているところは、この圏域で丸亀市1カ所、善通寺市2ヶ所の計3ヶ所しかありません。そのうち、善通寺市の1カ所は丸亀市寄りにあって、実際の利用は丸亀市民の割合が多くなっています。そういった現状を把握したうえで構想を練らないといけないと思います。</p> <p>また、先ほどから連携という言葉が出ておりますが、連携することは簡単ではありませんので、実際に連携するのであれば、きちんと関係を作ることができるキーマンを置いて進めていかなければ、絵に描いたもちになりかねないので、そういったことも考えていただきたいと思います。</p>
板倉会長	<p>まずは現状認識があってはじめて施策が練れるということですね。</p>
高木委員	<p>2市3町で連携していく中では、実際に目に見えるようなものをやらなければ意味がありません。例えば、丸亀市とまんのう町で見ても子育てに関する補助なども違うと思います。そういう小さいところからでも、双方の良いところを持ち寄って実現していければ良いと思います。</p> <p>今の若い世代は仕事に就くにも大変ですし、給料も上がりません。家庭を持つこと自体も昔とは違います。そういうところにお金を使って、一般の方がわかるようなこ</p>

	<p>とをしないといけないと思います。</p>
都村委員	<p>どこかの自治体では、結婚したり、第3子以上が生まれたりした場合に補助金をだすなど、施策は自治体によってそれぞれです。やはり、情報を共有化するだけでなく、施策も良い方向に合わせられれば良いですね。</p>
草薙委員	<p>これまでは子どもを産むと仕事をやめて家庭に入るといった状況だったのですが、今は、女性も子どもを産んだ後も今のキャリアを継続させたいという方が多くなっています。私が相談として受ける事例でも、仕事がしたいけれど保育所に入れられないという声も多く聞いています。確かに雇用と子育てという観点は大切であり、きちんと家族で協力して、女性も資源として雇用に活かしていけるようなイメージを考えていかなければならないのかなと思いました。</p>
事務局	<p>本日の将来像の資料はたたき台としてお示ししておりますので、できたら、それぞれのところで、キーワードとしてこういう言葉を入れて欲しいというご意見もありましたら、また、これに盛り込んだ形でお示ししてまいります。</p>
神原委員	<p>前回と今回、ここで出した意見、例えば道路網の整備などに対する回答は、すぐには間に合わないのでしょうか。</p>
事務局	<p>前回のご意見につきましては、既に担当課に伝えております。道路網の整備に関しては協定外の取組となりますので、検討・協議を行い、議会の議決を経たうえでビジョンに盛り込むこととなります。</p>
角野委員	<p>将来像・将来の目標としては、全国や香川県で人口が減ったとしても、この圏域は他のところと比べると減っていないといったイメージを私は持っています。県内からも県外からもこのエリアに集まっていただき、そういう共通の目標をもって取り組んでいただけたらと思っています。</p> <p>また、圏域内には魅力のある企業もありますので、それを知っていただく努力が企業側には必要であると思いましたが、圏域で子育て環境が良いということも実感や知識としてなかったもので、そういうことも情報共有して知ることも必要と感じました。</p> <p>また、このエリアの特色としては、住む・働く・育てる・楽しむ、そういうキーワードがあるのかなと思いました。</p>
板倉会長	<p>高知県の馬路村の例で言いますと、人口 1,000 人で人口自体は減少しておりますが、ゆずビジネスは 30 億円くらいの規模になっていて、それに関わるために、その JA で働きたいという外から来る方が増えております。この圏域内でも、ある程度の自然減少は仕方がないことですが、社会減は食い止めたいところです。</p>

草薙委員	馬路村でそれぞれのコミット(かかわりあい)がなされたのは、従来の地域の土壌があって自然に出来たのか、それとも行政が意図的に関与した結果なののでしょうか。
板倉会長	恐らく、外部の方と内部の方が連携した結果だと思われます。馬路村には、官舎などもあり、元々、外部を受け入れる風土があって一緒になってやっていったのではないのでしょうか。そういう外部の方を受け入れる姿勢が必要であり、地域活性化で注目されているところは、概ね地域コミットメント(地域愛、地域への関与など)が高く、外部・異質なものを受け入れるという風土があります。丸亀でもデータを取った事がありますが、地域への誇り等は高いものの、外部の受入という点ではあまり高くなかったという印象があります。
神原委員	将来像のキャッチフレーズのインパクトが弱い気がします。この会ではよく連携という言葉がでてきますが、「連携で魅力のあるまち」というような言葉を入れることもひとつの案ではないのでしょうか。
谷委員	香川のイメージですが、日本で一番狭い県ということもあり、狭い中でたくさんの人と触れ合えるというひとつの長所であると思います。 また、東京に行った友人が、東京で就職できない場合の保険として地元で就職先を探すときに、東京にいたという理由で受け入れてもらえないこともあるそうです。
角野委員	東京にいたから、こちらで就職できないということですか。会長から外部の力を受け入れる風土が大切という話もありましたが、この地域は閉鎖的なののでしょうか。
板倉会長	お遍路さんの文化もありますので、本当はそのようなことはないと思います。
草薙委員	私自身、県外から来た時にすごく疎外感を感じました。例えば、地域で太鼓などがあっても、声がかかるのは地元の人だけで、外から入ってきた人には声がかかりませんでした。そういう地域性はあるのだと思いますし、自分が子育てをしている中で気軽にご近所の方から遊びにおいでと誘われた記憶も正直あまりないですね。
角野委員	新しい物好きで好奇心もあって、ただ人見知りもするといった県民性なのかなとは思いますが。疎外するということまでの悪気はないのではないのでしょうか。
平田委員	将来像に「未来を拓く」という文言があるのですが、漠然としていて、どのような未来かというところがイメージしづらいです。将来像の姿が見える具体的なものがあればインパクトもでるのではないのでしょうか。
板倉会長	「拓く」という言葉はひらがなで表す例も多いようですが、ひらがなの方が良いのではないのでしょうか。瀬戸内中讃定住自立圏という名称も感じが長いですから改行し

	<p>た方が良い気がします。</p>
瀧原委員	<p>「拓く」というイメージは、私にとっては新たに開拓するというイメージであって、今あるもので未来をひらくということであれば、ひらがなの方が良いですね。</p>
谷委員	<p>みんなで作り上げていく、積み重ねていくという言葉も入ると、ひらくに繋がっていくのではないのでしょうか。</p>
草薙委員	<p>イメージとして「安心できる」や「安心して…」など、安心を表す言葉があった方が良いです。</p>
高橋委員	<p>ここまで時間をかけて将来像について検討していますが、事前にこのことについて考えてくださいという宿題のようなものがあれば、会ももっとスムーズに進むと思います。</p>
都村委員	<p>会の進め方として、具体的な取組事項については、委員が宿題として持って帰って、22 項目の他にまだ入るのではないかと考えてきて出したら早いのではないのでしょうか。</p>
高橋委員	<p>11 月までにビジョンを策定するというのですが、前回、こちらで出した子育て支援に係る意見について、担当課の方に流してはいただいているとしても、この場で報告もありませんし、中身にも反映されていません。取組に関することを先送りにしてしまうと、どんどん遅れるような気がします。</p>
角野委員	<p>ビジョンについて、2市3町の市長・町長が集まる機会はどの程度あるのですか。このビジョンの修正が、そういう市長・町長が集まる場で随時検討されて、今後も修正していけるのであれば、具体的なことをいまやっておかなければ、修正が1年先、2年先になるということではないと思います。</p>
事務局	<p>今回のビジョンが策定される10月～11月までの間に2～3回程度は予定しておりますが、それ以降も随時開催はしてまいります。</p>
角野委員	<p>そうであれば、キャッチフレーズのような基本的なものは今回11月までに決めてしまって5年間は使うということで、それ以外は随時修正するという流れですね。</p>
	<p>(意見を参考に、次回あらためて将来像を示すこととして確認)</p>

	<p>( 2 ) 具体的取組の内容について</p> <p>定住自立圏共生ビジョンに記載する取組のうち、一部を抜粋して事務局より説明</p>
瀧原委員	<p>「外国人向けの観光施策」ですが、角野委員の話の中では2市3町で連携してプロジェクトチームをつくって全体PRをするということもありました。外国人に向けたPRの前に、もっと国内・全国に向けた観光誘致等のPRが先だと思います。</p>
事務局	<p>これは、瀬戸内国際芸術祭や今後、外国人向けの対応が必要ということで取り上げられたものですが、確かに外国人に限らず、圏域内外の方を広く対象とした取組も必要であると思います。</p>
瀧原委員	<p>香川の観光で見ると、小豆島では、島全体の観光エリアや特産品が見るだけでわかるようになっています。せっかく2市3町で観光資源を持っていながら、そのPRに取り組まないのはもったいないです。</p>
都村委員	<p>これまで中讃広域行政事務組合などで連携してやってきた事業もこのビジョンに盛り込まれています。われわれが期待しているのは、新しいことですが、そういった施策があまり見えません。</p> <p>例えば観光ということで、善通寺駅で琴平町の宣伝はしていませんし、逆も同様です。そういったものは広域的に皆で取り組む必要があるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>現在の取組には、広域的なパンフレットを作成するということはありますが、その内容として、今後どのようにPRしていくのかといった課題もあり、検討していく必要もありますので、ご意見は所管課に伝えています。</p>
高橋委員	<p>確かに新しい取組を考えていくのも良いことですが、子育てに関して言えば、いろいろな市町によってサービスが違うからそれを統一して欲しいであるとか、既存の事業に関して充実を図ることも大切だと思います。</p> <p>何か楽しそうな取組がひとつでもあれば良いのだと思いますが、このビジョンを見てもワクワクするものや、ここに住んだら楽しい生活が送れるのではないかということが一切伝わってきません。</p>
事務局	<p>この計画は各市町でそれぞれ意見を出してきたもので、比較的早い段階で実現可能と思われるものが出てきています。このビジョンの素案について、一般の方や団体の方に見ていただくのは今回が初めてですので、今から肉付けがされていくものと思っておりますし、ビジョンを11月に一旦策定した後も協議は進めてまいります。</p>
高橋委員	<p>子育て支援の分野での発達障害児支援は本当に大事ですが、それに特化して取り上げられているのは残念です。次世代の若者に向けてという視点について草薙委員から</p>

	<p>前回ご意見ありましたし、これから子育てする全ての家庭に向けた視点も入れてサービスの充実をして欲しいことも伝えていきますので、それがどうなっているのか、また教えて欲しいです。</p> <p>それと、地域資源や地産地消という観点から提案したいものがあります。</p> <p>いま、国の施策として、生まれたお子さんに絵本をプレゼントするという「ブックスタート」という制度がありますが、これと同じように「ウッドスタート」という、木のおもちゃを子どもたちにあげるという取組です。</p> <p>これは中讃地域の森林を使い、中讃地域の企業体がおもちゃをつくって、地域の子どもにあげることで、子どもたちに木の大切さ・ぬくもりを知ってもらおうと共に地元でこういった木材ができていくということを知ることができ、地域でまわっていくような事業になると思います。</p>
事務局	<p>子育ての分野につきましては、発達障害児支援の他にも、ファミリー・サポート・センターなどの事業についても協議の場には出ているものの、実際に進めるとなると、つめるところがたくさんございまして、なかなかすぐには実施することは難しいですが、調整が整ったものから盛り込んでまいりたいと思います。</p> <p>先ほどのウッドスタートなどの具体的な取組については、検討もしていけると思いますので、またご意見いただきたいと思います。ちなみに、ウッドスタートという事業はどこかでやられているのですか。</p>
高橋委員	<p>まんのう町に県の西部林業事務所があり、そこでいろいろと動いておりますので、そこを通せばいろいろなことができるのではないのでしょうか。</p>
板倉会長	<p>では、圏域の将来像につきましては、この原案に修正するという事で、次回引き続き検討していくということにいたします。また、事務局より将来像・具体的取組に関するアンケート用紙が配布されておりますので、可能であれば9月21日（金）までに提出いただけるよう、お願いします。</p> <p style="text-align: center;">（本議題について、次回も引き続き検討することとして確認）</p> <p>会議終了</p>